

イーストスプリング・
ジャパン中小型厳選
バリュー株ファンド

追加型投信／国内／株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてわが国の金融商品取引所に上場されている（上場予定を含みます。）中小型株に実質的に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指した運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

作成対象期間 2022年7月28日～2023年7月27日

第9期 2023年7月27日決算

日経新聞掲載名：ジャパ中厳選

| | | |
|------|-------|----------|
| 第9期末 | 基準価額 | 22,499円 |
| | 純資産総額 | 3,055百万円 |
| 第9期 | 騰落率 | 25.8% |
| | 分配金合計 | 200円 |

(注)騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒ 「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

運用経過

基準価額等の推移について

(2022年7月28日～2023年7月27日)



| | |
|------|--------------------|
| 第9期首 | 18,046円 |
| 第9期末 | 22,499円(既払分配金200円) |
| 騰落率 | 25.8%(分配金再投資ベース) |

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

・保有している株式が上昇したこと。

1 万口当たりの費用明細

(2022年7月28日～2023年7月27日)

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-------------|-------|---------|---|
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 372円 | 1.925% | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は、19,329円です。 |
| (投信会社) | (191) | (0.990) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販売会社) | (170) | (0.880) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 |
| (受託会社) | (11) | (0.055) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 18 | 0.091 | (b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| (株式) | (18) | (0.091) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料 |
| (c) その他費用 | 11 | 0.057 | (c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 |
| (監査費用) | (6) | (0.032) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印刷) | (5) | (0.025) | 目論見書及び運用報告書等の法定開示書類の作成費用等 |
| (その他) | (0) | (0.000) | 余資運用に係る費用 (マイナス金利相当額) |
| 合計 | 401 | 2.073 | |

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

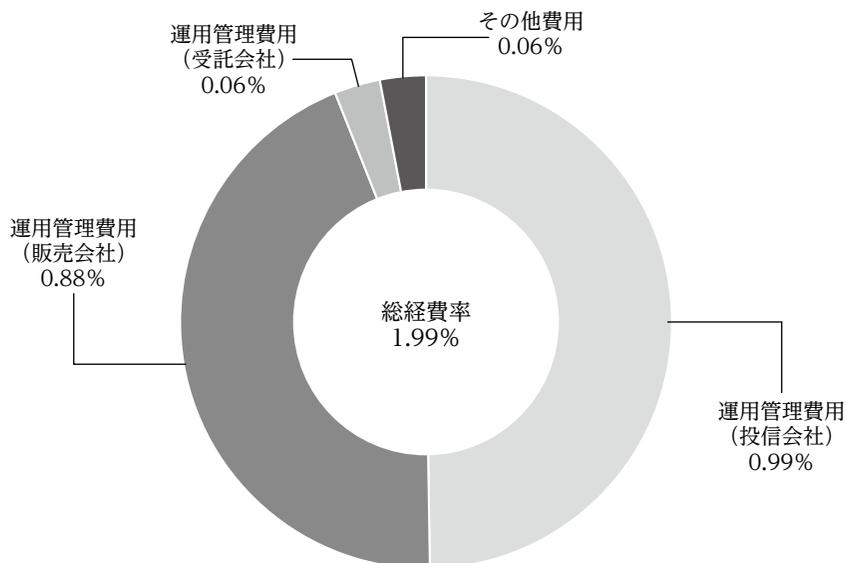
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.99%です。



(注) 各費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2018年7月27日～2023年7月27日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年7月27日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

| 決算日 | | 2018/7/27 | 2019/7/29 | 2020/7/27 | 2021/7/27 | 2022/7/27 | 2023/7/27 |
|-------------------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 基準価額 | (円) | 16,431 | 13,363 | 11,777 | 17,436 | 18,046 | 22,499 |
| 期間分配金合計（税引前） | (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率(%) | | — | -18.7 | -11.9 | 48.1 | 3.5 | 25.8 |
| 純資産総額 | (百万円) | 5,663 | 3,668 | 2,463 | 3,100 | 2,834 | 3,055 |

*当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

日本株式市場

期初から米国の利上げペースに対する思惑と米経済後退懸念が台頭する中、インフレや雇用など、米経済指標に一喜一憂する展開が続き、日本株式市場は2023年1月までレンジ圏で推移しました。2月以降は円安や中国からの渡航者に対する水際対策の緩和などを受けて、株価は期末まで上昇基調で推移しまし

た。低PBR（株価純資産倍率）や高配当利回りなどの割安株への買いや、外国人投資家の資金流入などが目立ちました。日銀のイールド・カーブ・コントロールの早期修正観測など金融政策の見直し懸念が高まる中、日銀が金融政策の維持を表明したことも株価上昇を後押しする要因となりました。

ポートフォリオについて

当ファンド

当ファンドは、イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本の中小型株に投資を行いました。

イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド

主として日本の中小型株に投資を行い、中

長期的な値上がり益の獲得を目指しました。

期中の投資行動は、株価の変動による割安度の変化などを考慮して、良品計画やリンテックなどの株式を新たに組み入れました。一方で、神戸製鋼所、りらいあコミュニケーションズなどの株式を全売却しました。

パフォーマンスは、神戸製鋼所やNOKなどの保有がプラスに寄与しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）

| 項目 | 第9期 | |
|-----------|---------------------------|--------|
| | 2022年7月28日 ～2023年7月27日 | |
| 当期分配金 | (円) | 200 |
| （対基準価額比率） | (%) | 0.881 |
| 当期の収益 | (円) | 200 |
| 当期の収益以外 | (円) | — |
| 翌期繰越分配対象額 | (円) | 12,499 |

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2)当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3)－印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

当ファンド

引き続きイーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券を高位に組み入れることにより、信託財産の成長を図ることを目指します。

イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド

これまで市場が短期的な視点やテーマに基づいた行動をとってきたことによって、依然として多くの銘柄の株価は企業の本来の価値を正確に反映していないとみており、長期投資家にとっては投資機会を見い出すことが可能だと思われます。当マザーファンドは企業の長期的な収益をけん引するドライバーは何であるかを分析し、さらに現在の株価がどのような懸念を織り込んでいるのかを十分に理解したうえで判断します。市場が短期的な視点

で投資行動を起こす中、我々は長期的な観点から企業業績のトレンドに着目していきます。

マザーファンドのアプローチでは、テーマに基づく市場の選好を追いかけることは避ける一方、割安とみられる銘柄群の中から、バリュエーションに基づく投資機会を見い出します。

多くの日本企業は、これまでの非効率な投資を減らし過剰な負債を削減してきた結果、他の先進国並みの収益性や体力を備え、さらに収益率の水準は肩を並べつつあります。また、業績に連動した経営陣の報酬や社外取締役の増加、報酬委員会の導入など、コーポレートガバナンス改革に対する企業側の姿勢が改善している点も着目しています。このように日本企業の経営陣が株主リターンを意識した適切な判断を下すことが世界で勝ち抜ける高い競争力につながると考えています。

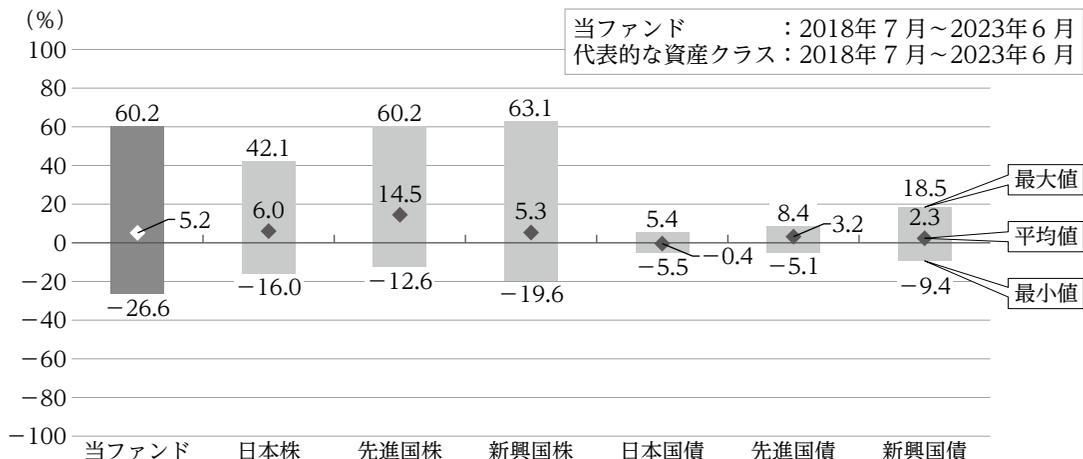
お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|---|--|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信託期間 | 2014年8月8日から2024年7月29日まで | |
| 運用方針 | イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の金融商品取引所に上場されている（上場予定を含みます。）中小型株に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指した運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | イーストスプリング・ ジャパン中小型厳選 バリュー株ファンド | イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド受益証券を 主要投資対象とします。 |
| | イーストスプリング 日本中小型株式 マザーファンド | わが国の金融商品取引所に上場されている（上場予定を含みま す。）中小型株を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | イーストスプリング・ ジャパン中小型厳選 バリュー株ファンド | 以下の投資制限のもと運用を行います。 ・株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ・同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額 の10%以内とします。 ・外貨建資産への投資は、行いません。 |
| | イーストスプリング 日本中小型株式 マザーファンド | 以下の投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以内とします。 ・外貨建資産への投資は、行いません。 |
| 分配方針 | 毎決算時（毎年7月27日。休業日の場合は翌営業日。）に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。 | |

(参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

| | | |
|------|--|--|
| 日本株 | 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) | 株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る商標又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。 |
| 先進国株 | MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース) | MSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。 |
| 新興国株 | MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース) | MSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。 |
| 日本国債 | NOMURA-BPI 国債 | 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。 |
| 先進国債 | J P モルガン G B I グローバル (除く日本、ヘッジなし・円ベース) | J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権は J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。 |
| 新興国債 | J P モルガン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) | J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権は J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。 |

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

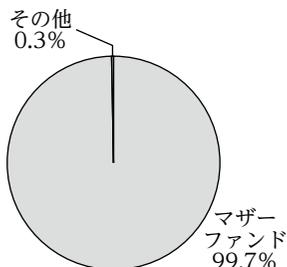
組入ファンド

(組入銘柄数：1 銘柄)

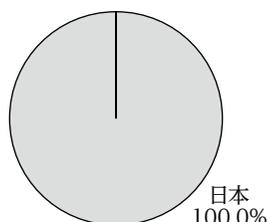
| ファンド名 | 第9期末 2023年7月27日 |
|-------------------------|--------------------|
| イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド | 99.7% |

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

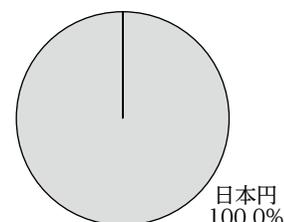
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

| 項目 | | 第9期末 2023年7月27日 |
|------------|-----|--------------------|
| 純資産総額 | (円) | 3,055,949,969 |
| 受益権総口数 | (口) | 1,358,245,385 |
| 1万口当たり基準価額 | (円) | 22,499 |

* 当期中において追加設定元本額は91,781,268円、一部解約元本額は304,328,987円です。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド>

基準価額の推移(2022年7月28日～2023年7月27日)

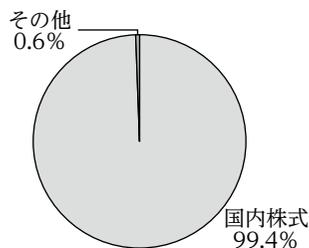


組入上位10銘柄(組入銘柄数：53銘柄)

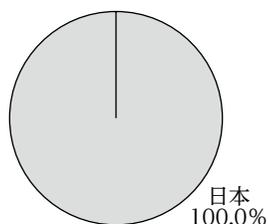
(2023年7月27日現在)

| 銘柄名 | 業種 | 市場 | 比率 |
|---------------------|--------|--------|------|
| コンコルディア・フィナンシャルグループ | 銀行業 | 東証プライム | 3.0% |
| 大東建託 | 不動産業 | 東証プライム | 2.9% |
| 明電舎 | 電気機器 | 東証プライム | 2.8% |
| リンテック | その他製品 | 東証プライム | 2.7% |
| リコー | 電気機器 | 東証プライム | 2.7% |
| 沖電気工業 | 電気機器 | 東証プライム | 2.7% |
| 東京センチュリー | その他金融業 | 東証プライム | 2.7% |
| D I C | 化学 | 東証プライム | 2.7% |
| オリエンタル白石 | 建設業 | 東証プライム | 2.6% |
| メタウォーター | 電気・ガス業 | 東証プライム | 2.6% |

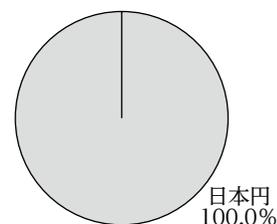
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

1 万口当たりの費用明細

(2022年7月28日～2023年7月27日)

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-------------|------|---------|--|
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 売買委託手数料 | 21円 | 0.092% | (a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 期中の平均基準価額は、22,756円です。 |
| (株式) | (21) | (0.092) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.000 | (b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (その他) | (0) | (0.000) | 余資運用に係る費用 (マイナス金利相当額) |
| 合計 | 21 | 0.092 | |

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。